市長のふれあい訪問

「安　行　盆　栽　会」

昭和30年に発足した植木職人の会で、現在は2代目の会員10人で構成、安行の盆栽や植木の知名度アップと技術向上などを目指し活動している「安行盆栽会」を岡村市長が訪問。盆栽や植木づくりの楽しさ、難しさなどをお聞きしました。

市長　新年あけましておめでとうございます。今年も市長のふれあい訪問をよろしくお願いいたします。平成20年最初の市長のふれあい訪問は、安行盆栽会のみなさんです。

さっそくですが、お正月などのおめでたい席には、この松竹梅の寄せ植え盆栽が付き物ですが、会長の吉田さん、松竹梅のそれぞれには、どんな意味があるのですか。

吉田　松に鶴、竹に月、梅にウグイス、それらが全部おめでたいということで松竹梅になったとの説があります。また、松や竹は寒さに耐え、梅はこれから花が咲くので、春を迎えるのにふさわしいという意味もあると思います。

市長　確かに松や竹は冬でも緑色を保っていますし、特に松は長寿の象徴とも言われていますからね。

小櫃さんには、毎年お正月に立派な松竹梅の寄せ植えを市役所へいただくのですが、この寄せ植えはいつから始まったのですか。

小櫃　江戸時代からです。当時、植木屋さんが縁起物の松竹梅をつくって、暮れにお歳暮として「来年もよろしく」とお得意様のところへあいさつに持って行ったのが始まりと聞いています。

市長　なるほど、大名屋敷などでは暮れに庭の手入れをやりますから、そのお礼とお歳暮を兼ねて持って行ったんですね。

盆栽というのは、こんなに小さいのに大宇宙を表現しているような雄大さを感じさせるものがありますが、盆栽自体はどこから日本に伝わって来たのですか。

山崎　江戸時代に中国から伝わって来たと言われています。

小櫃　三代将軍・徳川家光が愛用したと言われている松の盆栽が皇居にあって、今も元気です。家光が見ていたということは、その時すでに相当の年月が経っているはずです。

市長　数百年前につくられた盆栽が今も健在というのは、すごいことですね。松はかなり大きくなっているのでしょうか。

石井　幹は太くなっていますが、松自体は剪定しているので、そんなに大きくなっていないそうです。

吉田　肌が荒れているような幹を見かけますが、あれが太っている証拠なんです。太るから外側の皮が破れるので、ほんの少しずつですが、毎年成長しているんですよ。

市長　家光の盆栽の幹は、かなりの太さなのでしょうね。ところで、川口以外にも盆栽の盛んなところはありますか。

吉田　かつては東京の駒込あたりが盛んだったのですが、戦争で疎開して、現在では大宮の盆栽町とかですね。あと福島や関西にもあります。

小櫃　30年くらい前から海外でも盆栽がブームになり、ヨーロッパなどからバイヤーが仕入れに来ますよ。

市長　この盆栽会はどのくらいの歴史があるのですか。

山崎　昭和30年に発足し、半世紀が経ちました。

市長　そうすると、現在は2代目・3代目のかたがたで構成されている訳ですか。昨年の市長のふれあい訪問では、市指定無形民俗文化財の保存会のみなさんのところへ行ったのですが、この寄せ植えの技術もこれだけの歴史があるのですから、無形民俗文化財に指定できそうな気がしますね。

ところで、土の上に敷いてあるこの苔が絶妙な味わいを醸し出しているのですが、この苔をどこで採ってくるかは、その職人さんの㊙中の㊙だと聞いたことがあります。実際そうなのですか。

石井　自宅の裏庭で栽培するという訳にいかないので、集めて来るのが本当に大変なんです。ですから他人には教えられませんね。

市長　やはりそうでしょうね。それも寄せ植えづくりの大変さなのですが、ほかにもご苦労されてる点は何かありますか。

吉田　何と言っても、いかに長い間鉢に入っていたかというような古さを表現するのが難しいですね。

小櫃　われわれが一番見て欲しいのは植え方の景色ですね。模様を出す技術、造園の庭師さんが庭をつくるのと同じですよ。

市長　ちなみにこの正月用の寄せ植えを完成品にするためには、何月ごろから手掛けるのですか。

吉田　12月の初めからです。

市長　1ヵ月で仕上げて、もう何年も植わっていたかのような雰囲気をつくるというのは、並み大抵の技ではありませんね。

正月早々、いいお話を沢山お聞かせいただきありがとうございました。ぜひ、これからもがんばってください。